

シラバス

ナンバリングコード/ 科目番号	HE33001	
科目名	病原微生物学	
科目名（英語）	Medical Microbiology	
授業形態	講義	
標準履修年次	2年次	
実施学期・曜時限等	秋学期BC水 3・4限	
使用教室	4B116	
単位数	2単位	
担当教員名	森川一也、宮腰昌利、竹内 薫、人見重美、川口敦史、加藤広介	
使用言語（ <input checked="" type="checkbox"/> してください）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 ・ <input type="checkbox"/> 英語 ・ <input type="checkbox"/> バイリンガル	
ティーチングフェロー (TF)・ ティーチングアシスタント (TA)	なし	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること	
学位プログラム・コン ピテンスとの関係	汎用	
	医療	2.人間の健康と疾病の理解 3.臨床検査の知識と実践力
	国際	2.人間の健康と疾病の理解 3.臨床検査の知識と技術
授業の到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陰性通性嫌気性桿菌の特徴および検査法を説明できること。 ・グラム陰性好気性桿菌、らせん菌の特徴および検査法を説明できること。 ・グラム陽性桿菌、抗酸性菌の特徴および検査法を説明できること。 ・グラム陽性球菌・グラム陰性球菌の特徴および検査法を説明できること。 ・グラム陰性嫌気性菌、非定型細菌の特徴および検査法を説明できること。 ・臓器および病態別に主たる細菌感染症を説明できること。 ・病原性真菌の特徴および検査法を説明できること。 ・細菌検査と臨床の実際を説明できること。 ・ウイルス学の基礎的項目と宿主応答を説明できること。 ・ウイルスの病原性および検査法を説明できること。 	
他の授業科目との関連	微生物学、微生物学実習 病原微生物学実習、ウイルス学実習 国際感染症学	
履修条件	微生物学を履修済みであること、または同等の知識があると認められること。	
授業概要	感染症の原因となる病原微生物について解説し、その生物学的な特徴を理解させる。病原体とは何か、どのような種類があり、人体にどのような影響を	

	及ぼすのかを理解させる。特に感染症を診断するための検査法の基本について重点的に教授する。さらにヒトや各種微生物の共通性・特殊性について最先端の研究例を含めて理解を深める。
キーワード	細菌、ウイルス、真菌、病原体、検査
授業計画	<p>11/13 森川一也 グラム陰性通性嫌気性桿菌</p> <p>11/20 森川一也 グラム陰性好気性桿菌、らせん菌</p> <p>12/4 森川一也 グラム陽性桿菌、抗酸性菌</p> <p>12/11 森川一也 グラム陽性球菌・グラム陰性球菌</p> <p>12/18 森川一也 グラム陰性嫌気性菌、非定型細菌</p> <p>12/25 宮腰昌利 細菌感染症総論</p> <p>1/8 竹内 薫 病原性真菌</p> <p>1/15 人見重美 細菌検査と臨床</p> <p>1/29 加藤広介 ウイルス総論復習、宿主応答</p> <p>2/5 川口敦史 ウイルスの病原性、検査法</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>講義 100% (15 時間)</p> <p>授業外学習 (30 時間) 講義内容の復習と、講義でカバーしきれなかった教科書内容についても学習する。また提供された課題に取り組む。</p>
単位取得要件	期末試験の評価 C 以上
成績評価方法	期末試験により評価する。
教材・参考文献・配付資料等	<p>教科書、「メディカルサイエンス・微生物検査学」第 2 版 近代出版</p> <p>参考書、「臨床検査学講座、微生物学/臨床微生物学」第 3 版 医歯薬出版</p> <p>配布資料：manaba またはプリントで適宜提供します。</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>本科目は臨床検査技師国家試験の受験を想定した内容が中心となるので、他学類からの履修者はその点に注意してください。</p>